

植調協会だより

◎ 会議日程のお知らせ

・平成23年度冬作関係（麦類・いぐさ・水稲
刈跡）除草剤・生育調節剤試験成績中央検討会
日時：平成24年9月13日（木）10:00～17:00
場所：浅草ビューホテル

〒111-8765

東京都台東区西浅草 3-17-1

TEL 03-3847-1111

お詫びと訂正

「植調第46巻第4号」について下記のとおり
ご訂正をお願いいたします。

P1 巻頭言 執筆者の所属

誤：農業化学品開発部長 →

正：農業化学品開発グループリーダー

訂正してお詫び申し上げます。

編集後記

写真撮影のために水田雑草をポットで育てている。芽ばえから生育初期までを撮影するのが目的のひとつなので、余分な苦勞を強いられることになる。ただ育てるだけなら、水田土壌が最適だろうが、それでは雑草の発生が多くて、狙う草種と区別がつかないので、雑草（話がややこしいが、要するに目的外の草種）種子の混入していない土が欲しい。昨年は水稲用育苗培土を使ったが、種子発生のもので肥料焼けを起こしたものがいくつかあったので、今年は「芝の目土」を使うことにした。この土は雑草種子の混入がなく、肥料成分が含まれていないので、撮影には理想的な条件を備えていると思えた。

灌水の方法は、栽培ポットの底に穴を開け、そのポットを大きなバットの中に入れてバットに水を張る「底面灌水」とした。種子の発芽までは、バットに水を深く張って湛水管理

とし、発芽してからは水張りを浅くしてヒタヒタ水管理にする。芽ばえや生育初期の草が土壌粒子で汚れるのを嫌ってのことである。

経過を報告する。発芽までは順調だったが、なにせ土壌微生物相がブアなうえに肥料分がゼロである。入手の容易な液肥ハイポネックスで対応したが、水田状態では適量がわからない。用心して少なめから始め、効きが悪いと思ったら増やす、という具合に徐々に施肥量を増やしていった、高温期の現在、何とか育つようになったが、雑草が伸びるより先に藻が発生してきて手こずっている。藻も出ないような土では、おそらく肥料も吸収してくれないだろうから、仕方がないだろう。

ともあれ、放っておけば勝手に発生してきて手を焼く水田雑草も、栽培するとなれば難しい。世の中、そう都合よくいくものではないと思い知らされている。

公益財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 (03) 3832-4188 (代)

FAX (03) 3833-1807

<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小川 奎

発行人 植調編集印刷事務所 元村 廣司

発行所 東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
植調編集印刷事務所

電話 (03) 3833-1821 (代)

FAX (03) 3833-1665

平成24年8月発行定価 525円(本体500円＋消費税25円)

植調第46巻第5号

(送料270円)

印刷所 布ネットワン